

議会運営委員会

東京都町田市「10月18日」

▼議会改革等

町田市議会では、市民に分かりやすく開かれた議会を目指すため、議会改革特別委員会を設置し、具体的に「傍聴者受付簿廃止」「インターネット中継」「中・高生に分かりやすい予算書の作成」を行っているほか、傍聴を呼び掛けるためにコミュニティバスや町内会（自治会）でPRを行っている。

また、大規模災害時には、市が実施する災害応急対策に協力するとともに、市民の生命、財産の保全に努めるため市議会災害

議会報編集特別委員会

山形県鶴岡市「11月1日」

▼議会だよりの編集

鶴岡市議会だよりは、表紙写真を含めて大部分の作業を議会事務局が行っており、議員・編集委員が直接編集する記事（総括質問や一般質問）が限られている。また、発行に至るまでの委員会の開催を2回とし、定例会終了後50日以内に発行している。

多摩市議会では、決算と予算を連動させていく取り組みとして、議会基本条例で議会による行政評価を明確文化している。岩沼市議会

先進議会調査報告

議会運営委、議会報編集特別委

においても、予算決算審査の在り方について事業評価を条例に明文化しなくとも、今後の財政運営に費用対効果を重視する取り組みを検討する必要がある。

また、多摩市議会と同時期に施行した岩沼市議会基本条例には反問権の規定がないことから、議会と執行部に緊張感を持たせるためにも、条例の見直しも含め検討すべきである。

編集後記

東日本大震災から、間もなく2年が経過しようとしています。あの3月に高校を卒業した高校生は今年1月に成人式を迎え、あの卒業式だった中学3年生は、4月に高校3年生となります。

時は過ぎても、震災の記憶を風化させてはならない、その一方で、震災からの復興を目指す、確かな息吹を議会だよりに取り上げたい、

震災復興への息吹を

その思いを表紙の写真に込め、前号から撮影のテーマとしています。「まずは手にとつてもらえるものにしよつ」

思い出ししてもらえなものにしよつ」、編集委員会ではそのような議論もなされます。議会だよりを通して震災復興の道筋を感じていただける、そのような紙面づくりに努めてまいります。

議会報編集特別委員会

当委員会では、記事の正確を期するために担当委員自ら議会報を確認しながら編集等を行い、表紙写真をはじめとする写真撮影を行っている。今後は、記事の正確性を重視しつつ編集期間を短縮することに、編集作業の効率化などの工夫を検討すべきと考える。

▼議会インターネット中継
鶴岡市では、平成17年度に議会議中継用のカメラを整備し、18年度にインターネット議会議中継システムを導入した。

岩沼市では、カメラと録音機器がすでに設置されており、不足する機器並びに回線の増強及びエンコードパソコン・配信サーバーの購入程度で運営が可能と思われる。ただし、保守管理や運営等の費用はそれなりに必要であるため、調査を要すると考える。導入に当たっては、傍聴者へのアンケートや議会報告会などでの市民の意見を参考にするとともに、費用対効果も考慮しながら、前向きに検討すべきと考える。

◎ほかの調査地
山形県尾花沢市「11月2日」
▼議会だよりの編集



町田市議会で調査中の委員



鶴岡市議会で調査中の委員